182mm　　182mm

128.5mm

「水道管老朽化問題」目先の値下げか、未来の値上げか。

●値上げを避けたい方も、値下げを望む方も。

「資金に余裕があるので水道料金を値下げしたいのですが？」恐らく、この問い掛けにはほとんどの方が賛同されると思います。しかし、この資金は水道管の老朽管更新に充てなくてはならないとなれば、賛否両論になるかも知れません。

皆さんにお考えいただきたいのは、「いつかは値上げする時期が来るかも知れないけど、値下げする余裕があるから今だけ負担を軽くした方がいいかどうか」です。

この問題は、議案として表面化されたわけではなく、今まで議会で議論されてきた内容で、これを契機に市民の皆さんにもお考えいただきたいと思い、今号で問題提起しています。

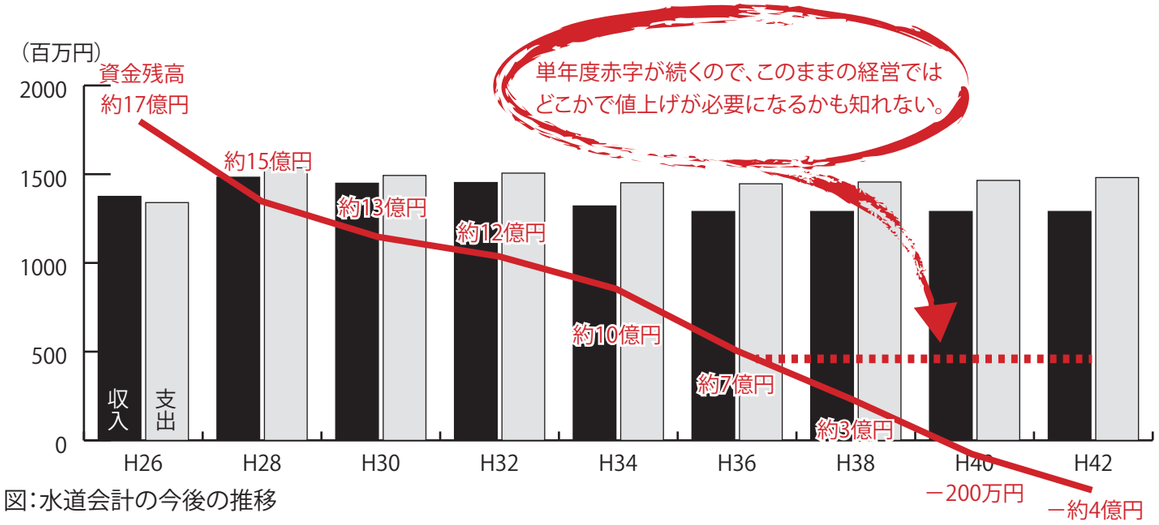
表紙にも書いたように「未来へのツケは最低限食い止めたい」という政治姿勢なので、私自身は目先の値下げには反対です。しかし、繰り返すようですが、色んな立場の方々が市内に住んでらっしゃいますので、一度お考えいただきたいと思います。

●基金か、起債か。

「起債を使えばいい」という意見もあります。起債とはローンのことで「現役世代だけで負担するのは不公平。後世にとっても受益があるんだから。」という理由で未来にも負担をお願いすることです。しかし、その理由を大義名分に起債を発行し過ぎた高石市は現在ローンの返済額が極めて多い状態になっています。

起債が負担を未来に向かって平準化する手段であれば、基金は将来負担すべきものを現在に向かって平準化する手段です。高石市のローン返済が多額であるという状況、未来に負担を回さないという理由から、一定は基金で対応すべきと考えます。

図の説明：平成27年度より水道管の耐震化・老朽管工事が本格実施されることにより、支出が増えます。また、人口減、節水努力により収入も年々減少しています。それにより、単年度黒字が逆転し単年度赤字で推移することが予測されています。災害時、収入が途絶えても起債の償還や修繕費の支払いが求められるので、一定の資金残高が必要です。残高ゼロになる前に料金の改定、つまりは値上げを実施し、収支均衡を図ることが必然的になってしまいます。



図：水道会計の今後の推移

市民にも分かりやすい水道ビジョンの策定を。

値上げを避けるための経営努力を。

上記のように水道老朽管の更新工事が必要とされているのですが、市民生活に直結する問題にもかかわらず、客観的な数的根拠や長期予測に裏打ちされたビジョンが策定されていません。老朽管更新に伴う計画書の策定は、国からも要請されており、今年の行政視察の内容に戸田市の水道ビジョンが設定されているほどです。分かりやすい計画書の策定が急がれます。

早急に策定するよう訴え、その過程において、まだ経営努力できる余地が残されているかの精査も行わねばなりません。

例えば、水道管を工事する際に下水道管の工事も同時期に行うことで工事費用の支払いの減少が見込まれますし、余剰金の貸付金利（現在は高石市の本会計に0.1％の金利で貸し付けている）の改善も指摘されています。

市内で全長１７０㎞ある水道管を入れ替えていくには、少額の支出削減も大きな効果を生み出すことが考えられます。

経営努力の余地があるのに、赤字経営だからといって水道料金の値上げに踏み切らないよう注視しなくてはなりません。

一般質問

お年寄りがもっと乗りやすい福祉バスに。

アリオ鳳・燦々プール・北助松駅など従来の発想から逸した停留所の新設を。

加茂病院に停まる停留所をなぜ「加茂幼稚園西」と分かりにくい表現をしているのかと質問すると「停留所はあくまで公共施設で」という返事が。「アプラたかいし」や「千代田郵便局前」という民間施設の停留所があることを考えれば明らかに矛盾であると指摘をしました。公権力が民間施設に利益誘導をするべきでないという気持ちはわかりますが、停留所の名前だけで売り上げが飛躍的に伸びるとは考えにくいですし、なにより利用者の立場になって考えていないと申し上げました。

先日、初めて福祉バスに試乗しましたが、車内は高齢者同士の情報交換の場になっていて、より利便性を高めて多くの方々にご利用いただくべきバスであると確信しました。

西取石５，７丁目には停留所がなかったり、市外のアリオ鳳や燦々プールなどのニーズも高いことから、従来の固定観念から抜け出して、利用される高齢者に寄り添った視点で福祉バスの利便性を向上するべきと訴えました。

健幸のまちづくりをうたっている高石市として、高齢者の外出意欲を促進させるために、乗りやすい福祉バスの運行に注力すべきです。

一般質問

放置してきた高石斎場の管理を今こそ。

使用者がいるかどうか把握困難なお墓が約２０００基以上も存在。

臨海線沿いにある市営浜墓地の残りの区画はわずか１６区画、あと数年で埋まってしまいます。そうなれば、隣接する体力つくり広場（アスレチック）に増設される可能性が高まりますが、３つの問題が浮かび上がります。墓地の拡大には住民の理解が必要となること、多額の整備費用が必要となること、ただでさえ少ない公園の緑地が減少することです。

浜墓地の拡大にそれだけの労力と支出をかけるなら、高石斎場のいい加減な管理を見直すべきだと訴えました。

高石斎場はずっと昔からある霊園であったことから、全てのお墓が記されている台帳が存在しません。なので、誰が使用者なのか、その使用者は存在するのか、こういったことすら把握できない状態にあります。

「巻石を踏まないと自分のお墓にたどり着けない」「次々と勝手にお墓が作られている」という苦情をお聞きしますが、それらに対応するには台帳を作成し、管理できる体制を構築する必要があります。高石斎場の適正管理は遅かれ早かれやらねばならないことです。多額なお金をかけて浜墓地を拡充するより、まずは、この課題の解決に着手するべきと考えます。

一般質問

128.5mm